

今回の新城市民病院での 1 か月の地域医療実習では主に、初診外来や救急車対応を行わせていただきました。普段は ER 業務がほとんどで自分で患者さんをフォローすることはしなかったのですが、初診外来で自分がファーストタッチした患者さんを治るまで数回フォローしたという経験は非常に貴重なものでした。経過とともによくなる患者さんもいれば逆に悪くなる患者さんもいらっしゃり、経過フォローの重要性を感じました。再診で悪くなっていたら次はどうアプローチしようかなどと考えると、調べることだらけになっていきグーグル検索する日々が続きました。ほとんどの場合はよくなって再診されるのでこちらとしても元気な姿を見ると安心します。

救急車対応では他病院の同期や 3,4 年目の先生と一緒に診察にあたりました。各病院で検査の仕方や検査閾値などが異なり驚きました。普段全然とらない身体所見も多々あり非常に勉強になりました。救急外来では時間的制約もあるのですべての検査、身体所見をとるのはなかなか難しいですが、学んだことは今後の診療でも積極的に使わせていただきます。

また今回の研修では、在宅医療やリハビリ、在宅復帰支援など普段の診療ではなかなか見ることのない場面も多く見学でき、非常に良い経験になりました。在宅での終末期医療が全国的に推奨されている中、実際に在宅復帰するまでの経過やその後の実生活などさまざまな視点から医療・介護について学ばせていただきました。

交通手段が無い・親族がいない・金銭的に難しいなど個々の社会的背景に寄り添い復帰支援をしていくのは非常に難しく、様々な職種の方がチームとして介入していく必要性を感じました。

作手診療所の見学では、医療資源が豊富ではない現場でどのようにリスクマネジメントを行い、適切なタイミングで紹介するかといった点について考えさせられました。患者さんと普段からコミュニケーションをとり信頼関係を構築することで、少ない情報からも緊急疾患を拾い上げることにつながっているように感じました。

助産所の見学では、出産から産後、育児にかかわることまで幅広い期間で母子と向き合い援助していく様子を学ぶことができました。地域の出生率がどんどん下がっている中、地元で出産したいという方は一定数いらっしゃり、そういった方が安心して産める場所を提供するのも周産期医療において大事だと感じました。

4 週間という短い期間でしたが、介護・福祉・リハビリ・在宅支援など普段の臨床とは少し離れた現場を見学し、さまざまな視点から医療を学ぶことができました。新城市民病院の先生方は毎日の振り返りカンファでさまざまな意見交換をされており、参加しているだけでも大変勉強になりました。

ありがとうございました。